

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 13日

事業所名 ことばの教室ことのは

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2	教室は2階にあり、急な階段になっているが、てすりをしっかりつけて対応している。玄関の段差や柱には緩衝材を設置している。また、写真やイラストで児童にも分かりやすい標記を掲示している。	今後、定期的に安全確認を行い、対処の必要な箇所を発見次第対応していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		活動内容に合わせたスペースを用意し、子どもたちが自分で好きな遊びを選択できるようにしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3		こども支援の情報共有に多くの時間が割かれ、なかなか業務改善の場が持ていないので、定期的にその話ができるミーティングを持つようにしていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1	こどもプラス本部から定期的に巡回実地指導を受けている。また、税理士事務所へ適宜相談助言等ももらっている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3	各自で興味関心のある外部研修会や講習会に参加し、それをミーティング等で共有等をしている。	Web研修なども利用し、教室全体として、研修の時間をしっかり確保したい。そのために業務の効率化などの創意工夫が必要なのでしっかり取り組んでいきたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		言語評価では、標準化された検査をおこなっている。(新版構音検査、質問応答関係検査を使用)	他機関からの検査結果を保護者から頂き、状況の把握に努めている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	2		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	支援計画や日々の活動プログラムはSTが中心となっているため一貫性のある支援ができています。	支援計画作成後、職員全体で支援内容の確認の場も設けていきたい。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2	日々のプログラムはSTがメインで立案している。その課題等の把握については、日々のミーティングで全体で話し合い共有している。	プログラム立案のための状況把握をミーティングで行っているが、職員一人一人がプログラム立案にかかわっていることを意識できるようなプロセスを確立していけるよう努めたい。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	こどもの興味関心のある教材等や遊びを取り入れたプログラムを作成し、子どもたちが楽しく参加できるように工夫している。	これからも各種研修等を通して、魅力あるプログラム作りを行うため、学んだり情報収集等も行っていきたい。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	1	子どもの興味関心に応じて、課題を把握し、支援計画に結びつけていきたい。	質問13同様、計画作成、作成後に職員全体で確認が出来る流れを確立できるようにしたい。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	3	ST以外の職員が担当する場合は、訓練前に必ずどのように訓練をするかなどを申し送っている。また、毎日ではないが、適宜必要な役割分担について確認などを行っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	言語訓練を実施した担当者が訓練の様子についてST及び業務終了時の全体ミーティングで報告し、全体で共有する。	これまで業務終了時に振り返りのミーティングを行っていたため、午前のパート職員には振り返りの機会が少なかった。これから午前にもミーティングの時間を設定し、パート職員もしっかり振り返りする機会を勤務の中で設定していきたい。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		毎回「言語記録」に訓練時の内容や様子を記録している。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		保護者、相談員や学校保育園などと関係者会議を行い、適宜支援計画の見直しを確認している。	
関係機関や保護者	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		ST及び児発管が日程調整を行い、参加している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	対象児童が少ない為連携もあまりない。	関係者会議を含め必要な場面では積極的に連携を視野に入れた支援を計画していきたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	6	対象児童がいない	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	6	対象児童がいない	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		移行支援の必要な対象児童がいれば、必要な児童の関係者会議に参加し情報共有等を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
との連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	移行支援の必要な対象児童がいれば、必要な児童の関係者会議に参加し情報共有等を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3	連携等はないが、関係機関が主催する研修会には参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7	当教室では、個別訓練をメインのプログラムとしているため、多団体との交流等のニーズはなく個別訓練充実へのニーズの方が高い。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		7	そのような場を把握していない。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		毎回訓練終了後に活動の様子や課題を保護者に申し送りを丁寧に行っており、また家庭での様子についても同時に把握し相互で共有している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2	事業所主催のペアトレの講習会は行っていないが、日々の申し送り時に保護者に対し、適宜助言等を行ったり、参考になる情報提供を行っている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	1		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		日々の申し送りの中で、相談があれば助言等の支援や情報提供を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	保護者同士が学校等で連携や交流をしており、事業所での保護者会の開催はしていない状況。	保護者会がないため、特別保護者同士の連携支援は行っていないが、保護者同士の集まる場についてはニーズを把握し企画の提案を検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		相談については、申し送り時に確認されたら、終礼ミーティングで共有したり、管理者へ引き継ぐなどの体制はある。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2	活動の様子については、教室のブログで紹介。連絡体制は保護者との申し送り時の他LINEにて行っている。	会報については、ブログやラインでの情報公開で対応できていると考えている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		子どもの特質として絵や写真が理解しやすい場合は、それを使った意思疎通を図っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	行事への招待は行っていないが、近所への散歩活動の中で近所住民の方へ積極的に挨拶等を行い、事業所や障害のある児童への理解の機会になるようにしている。	地域に開かれた事業運営について、検討を行っていききたい。また、実施可能な地域住民との交流、関係性の強化については継続的に行っていききたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	職員には、マニュアルについて周知済。	保護者に対する周知は不十分な為、説明を行い、緊急時が発生した場合について、ミーティング等でどのような訓練が必要かなど検討していききたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		豪華管理者の指導の下、避難訓練をメインに年に2回実施。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	アセスメントシート等で児童の既往歴等を確認把握している。また、医療連携で看護師の訪問の際に適宜健康状態の確認等を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	アセスメントシート等で児童のアレルギー等を確認把握している。しかし、基本おやつ等の食べ物の提供を行っていない。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		いつでも見れるように管理し、新人職員に積極的に閲覧してもらっている。また、姉妹教室のヒヤリハットもSNSで共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	研修に積極的に参加呼びかけし、参加できなかった職員にはミーティングや研修報告書等で共有している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	3	児童の安全を確保する場面に限定し、契約時に想定される対象児がいる場合、保護者に説明理解を求め支援計画に記載している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。